



# 看護学同窓会便り No.8

平成24年11月23日発行  
連絡先  
電話・FAX 095-819-7947  
同窓会事務局 浦田

## 会長あいさつ

長崎看護学同窓会長: 下田 澄江

会員の皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと思います。  
長崎看護学同窓会も今年で109年目となり、会員のほぼ半数が養成所時代から看護学校までの卒業生、残り半数が医療短大から保健学科・修士課程までの卒業生となりました。同窓会は先輩から受け継いできた看護の歴史を継承し、そして母校の発展を支援していく使命があります。看護の継承に関して昨年の同窓会便りで、長崎における看護教育の歴史について故河本令子教授が著書の中に「今後の充実した史実の研究を期待したい」と述べておられることを紹介しましたが、早速長崎における看護の歴史に関して研究的に取り組んで下さっている方がいることがわかり、大変うれしく思い期待をしているところです。

同窓会便りでは浦田秀子副会長に保健学科の動向やトピックスを紹介していただいておりますが、昨年から開設している同窓会ホームページでは看護学奨励賞応募要領についても詳しく掲載していますので多くの方に活用していただきたいと思います。只今のアクセス数は約1200件ですが、全国各地で活躍されている同窓会会員の絆が広がり母校発展に繋がっていくことを期待しています。

ところで長崎看護学同窓会100周年記念誌に戦後昭和20年代の同窓会は卒業生はじめ大学病院看護師、病院長他医師や病院事務職員も参加しての盛大な病院行事であった様子が紹介されていたので皆様ご覧頂いた方も多と思いますが、先輩・後輩が一瞬にして心が通いあえる不思議な看護の一体感、魔法のように一瞬でなつかしい青春時代に帰ることができる同窓会の雰囲気は昔も今も変わることなく繋がっているのですね。懐かしい先輩方との語り、かわいい後輩達の活躍の様子、そしてそれをやさしく見守る先輩方の眼差しに私はいつも元気を貰っています。

今年度も11月23日に医学部良順会館において同窓会総会・懇親会を開催します。皆様お誘いあわせの上ご出席ください。同窓会で皆様にお逢いできることを理事一同楽しみにしております。



## 同窓会員数



## 平成23年度庶務報告

- 平成23年度入会者 84名  
平成24年度入会者 75名
- 経過報告
  - 同窓会総会 平成23年11月23日
  - 理事会開催 3回
  - ホームページ開設と運営
  - 慶弔
    - 3月23日 医学部保健学科卒業式: 生花寄贈
    - 原爆慰霊祭に下田会長献花: 生花寄贈
    - 物故者へ弔電
  - 看護学研究奨励賞運営
  - 同窓会だよりNo.7発行

総数	3,532名
養成所	312名
厚生女学部	148名
看護学校	1,324名
医療短大	1,201名
保健学科	533名 (医療短大の卒業生6名を除く)
修士課程	14名
(看護学校、医療短大、保健学科の卒業生14名を除く)	

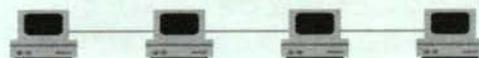
平成24年9月24日現在

## 物故者ご氏名

お知らせ頂いた方を掲載しております。  
養成所 8回生 原口佐和子(旧姓 石本) 平成23年1月26日  
養成所 23回生 多良 世子 平成23年12月4日

## 長崎看護学同窓会

### ホームページのご案内



長崎看護学同窓会のホームページを開設して皆さまにお知らせやご報告、ニュースレターなどの情報発信を行っております。どうぞ一度ご覧になってください。

[ <http://www.nagasaki-kango.org/> ]

## 保健学科の報告

### <保健学科看護学専攻7回生の進路>

平成24年3月、看護学専攻7回生74名が卒業し県内外の保健医療機関に65名が就職しました。長崎大学病院に16名、それ以外の長崎県内に9名、九州地区19名、関東地区15名、関西地区5名、東海地区1名でした。職種は3名が保健師、助産師は12名、50名が看護師として採用されました。5名は大学院等への進学でした。

### <保健師課程のカリキュラの変更について>

平成24年度入学生から保健師課程履修は選択制になりました。看護学専攻学生の3年次前期に20名以内の保健師課程履修者を選考します。選考方法は、書類審査と面接、小論文による審査ですが、保健師教育課程科目の成績や卒後に保健師として従事する意志を持っていることなど保健師としての将来性を期待した選考になっています。現在社会で求められる保健師は、企画力や調整能力、リーダーシップ性です。地域保健活動を意欲的に学びたい学生を育成していきたいと考えています。



## 保健学専攻(修士課程)の報告

### <長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻(修士課程)5回生修了>

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻(修士課程)看護学講座では24年3月に5回生5名が修了いたしました。そのうちの2名は放射線看護専門看護師養成コースの第1回修了生です。2年間の学修を是非現場に活かしていただきますようご活躍を祈念いたします。

### <助産師教育を大学院(修士課程)へ>

保健師助産師看護師法の一部改正に伴い、平成24年度から助産師教育を大学院教育とし、4月には定員8名の学生を受け入れ教育を開始しました。本コースは高度な助産技術を有し、問題解決能力および管理能力が高いという自立して助産実践ができるリーダー的助産師の養成を目指しています。本学からは3月に卒業した3名が進学し、また既卒者3名も入学しました。2年間で修士課程と助産師養成関連科目を修得することでかなり過密なカリキュラムではありますが、教員一同学生と共に目標目指して進んでいきたいと思っております。



## 卒業生の近況報告



保健学科6生 本田夏樹

(勤務先:長崎大学病院)

私は現在、形成外科・口腔外科の混合病棟で働いています。まだまだ分からないことが多く勉強の日々ですが、優しい先輩方のもと楽しい毎日を送っています。

学生時代は、看護とは？ということを考える機会が多くあり、自分なりの理想の看護師像というものがありました。しかし、1年目の頃は日々の業務に慣れるのに必死で、看護のことを考える余裕がありませんでした。2年目になり少し慣れてきた今、ようやく看護師としての役割を少しずつ見出せるようになってきたと思います。形成外科は、いわゆる「見た目」に関する疾患が多いため、どのようにしたら患者・家族がボディイメージの変化を受容できるのか、術後安静が必要となった生活の苦痛を最小限にすることができるのか、また、口腔外科は、生きていくために重要な「食べる」という機能に関する疾患が多いため、どのようにしたら食に対する欲求を満たすことができるのかを考えながら看護しています。

まだまだ色々なことを吸収できる時期だからこそ、たくさんの患者さん・家族と関わり理想の看護師に近づけるよう頑張っていきたいと思っております。

保健学専攻看護学講座5回生 堀川新二

(勤務先:社会医療法人財団白十字会佐世保中央病院)

長崎大学医療技術短期大学部を卒業し、12年目になりました。学生時代はつい先日のことのように思っていたが、気づけばこんなに月日が経ち、職場ではいつの間にかベテランとして仕事をできるようになりました。

臨床現場での日々は、忙しいながらもとても充実していました。しかし数年前、自分自身が看護師としてこの先何を目指してどうしたいのかが曖昧になってきました。そんな時、何気に立ち寄った母校で先生方と話す中で、大学院進学を勧められました。

いざ進学して、当初は具体的に研究したいことなど明確ではなく、恥ずかしながら手探り状態でしたが、日々臨床現場で出会う患者の病気に対する前向きな姿勢を感じているので、それをテーマにしたいと考え、「患者の生きがい感に影響を及ぼす要因」という研究に取り組みました。10年近い臨床経験があったからこそ、患者の思いに寄り添ったテーマの研究になった気がします。

また、大学院へ進学したから出会えた同じ院生や、指導していただいた先生方など、ここで培った人脈を宝物だと感じています。それらは、今までのように臨床現場で働いているだけでは出会えなかったでしょう。今はこの出会いがあったからこそ、仕事や研究に対しての提案やアドバイスをいただくことができ、自分自身が今後の目標をより明確に持つことが出来ていると思っております。

## 教員紹介

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻 江藤宏美教授

(看護学校36回生、医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻1回生)

16年ぶりに母校、長崎大学に戻り、大学院での助産教育に携わることになりました。変わらないものは、学生の時から同じだった高台の校舎、一方で、研究環境として大学の動きが全般的に活発化しているように感じました。

正直なところ、こんなに長く長崎を出ることになるとは予想だにしていなかったのですが、念願だった海外、カリフォルニア大学サンフランシスコ校での学修に触発されて、大学院での教育を受けたいと思い、聖路加看護大学大学院に進学しました。大学院での5年間は、自由と自発の精神を備えた校風、新しい知識を取り入れ、また創造しようとする柔軟な思考、学友や教員とのリベラルなディスカッション、海外との交流と学びたいものを学べる環境にありました。その後、同大学での教員となり、学内では助産教育に関わりながら、助産の大学院教育の立上げ、COEという国の大型研究、学外ではいくつかの学術学会での活動、助産教育の評価機構の活動など多くの貴重な機会に関わらせていただきました。

看護・助産、そして医療は変化していく実学だと考えています。これまでの経験や人のつながりを活かして、ここ長崎でのさらなる発展を目指したいと思います。専門職として、ケアの対象者を中心に据える姿勢と変化していく知識をキャッチアップしていきたいと思います。是非、大学院へ遊びに(学びに)来てください。

先輩たちが築きあげてきた長崎の長い歴史の流れの中で、後輩である我々が何をなすべきか、どこに向かっていくべきか考えながら、みなさんや学生といっしょにきらきら輝く新しい時間の流れをつくっていききたいと思います。

## 平成24年度看護学研究奨励賞受賞者ならびに次年度募集について

看護学奨励賞は、本年も3題の応募がありました。毎年、長崎大学大学院の先生・研究生、長崎大学病院の看護師の方に応募していただいています。本賞が若い研究者の助成としてささやかながらお役に立っていることを皆様と共有したいと思います。今後も多くの施設から、また看護実践の研究活動にもご利用いただければ幸いです。総会では授賞式とともに、これまでに授賞された2題の研究発表を予定していますのでぜひご出席下さい。

〈本年度受賞の研究課題〉

- ① やせた妊婦と低出生体重児出生との関連: 赤星衣美(長崎大学病院6階西病棟)
- ② 長期入院している双胎妊婦の経験と必要な支援に関する研究  
: 坪田幸子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学看護学講座修士課程)
- ③ 看護文化の継承: 専門職アイデンティティと戦争・災害・地域社会文化  
: 黒田裕美(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座)

〈総会で発表予定の研究課題〉

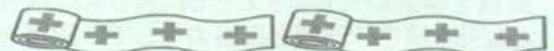
- ① 臨床看護師が体験している倫理的問題の実態及びその認識: 小川和美(長崎大学病院)
- ② 精神科に通院する子どもをもつ母親の体験と思い  
: 高田沙織(前:長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻)

☆次年度の募集も例年通り行いますので、ご応募いただきますようご案内申し上げます。応募期限は平成25年6月20日～7月20日の予定です。応募要領、申請書など詳細については下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先: 勝野久美子(長崎北病院 Tel 095-886-8700 e-mail: kita\_k\_katsuno@shunkaikai.jp)



## 第2回日本放射線看護学術集会開催のご案内



看護師と放射線との関わりは、自らも被爆しながら被災者をケアした広島長崎の看護師に始まります。以来、放射線の医学利用の増大とともに、放射線看護は診療の場を主な舞台に発展してきました。一方で、核燃料工場の事故や東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故を経験し、放射線看護は地域の人々や産業現場の人々、そして被ばく患者のケアをも実践できる、さらに高度なものへと拡大・変革することが急務となりました。

日本放射線看護学会は平成24年9月29日に設立総会および第1回学術集会が弘前にて開催されました。第2回の学術集会は長崎で平成25年9月14日(土)に医学部記念講堂、良順会館、ポンペ会館で開催予定です。学術集会長は浦田秀子が担当させていただくことになり、保健学科のご支援を受け、本学科教員および長崎大学病院看護師とともに鋭意準備を進めております。

“臨床、地域、産業をつなぐ放射線看護の実践と知の集積を目指して”をミッションとしてこれから活動してまいります。本学会へご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(文責: 浦田秀子)

## 長崎大学病院看護部の近況について

4月から看護部長を拝命致しました江藤栄子と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さわやかな秋晴れの日が続き過ごしやすい季節を迎えました。同窓会の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より下田会長をはじめ多くの方々から看護部へのご指導、ご支援を頂き心より厚く御礼申し上げます。

さて、看護部の近況ですが、4月から看護部理念を変更致しました。新しい看護部理念は「私たちはどんなときも、安心と信頼を得られる看護を提供します」です。

昨年度は「私たちが提供したい看護とは？」というテーマで様々な経験別の看護師間でワークショップを開催し、議論を重ねました。そして、この理念は田添前看護部長の熱い願いがこもった理念であり、当院の看護部が目指すべき看護の姿を示していると思います。看護師1人ひとりがいつも理念に立ち戻り、患者の期待に応える質の高い看護を提供できるように日々努力していきたいと考えています。

また、看護体制をPNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)体制に変更致しました。現在、PNS体制を病棟部門に導入しています。看護師ふたりが看護業務を一緒に実践し、パートナーやチームメンバーで補完、協力し合い、患者に必要な看護ケアを効果的に提供できる看護体制です。安全、安心で質の高い看護が提供できると考えます。

大学病院の看護の役割として、より専門的で質の高い看護が提供できるように専門看護師(3名)や認定看護師(23名)の資格取得を進めると共にこれら有資格者の人材活用に力を入れています。そして、認定看護師数は全国国立大学病院の中で第1位でした。

各専門看護師・認定看護師は院内で専門コース研修を開講し、看護職員のスキルアップに多大に貢献しています。また、個別の症例にも対応できるように横断的な体制をとっており、より実践に即した質の高い看護を提供しています。他の施設や講演会等の講師として招かれることも多く、地域の中核病院として、地域全体の看護水準の向上のために貢献しています。

それから、学生や看護職員の質の向上のためには、看護部と保健学科との連携もさらに強化した体制が必要と考えています。今年度は臨地実習指得て、看護師一人ひとりがモチベーションの高い学びができるように実施しています。

日々進歩発展する医療に対応できる看護職員の育成が意図的にかつ継続的に必要になります。これからも保健学科と協働し、人材育成に力を注いでいきたいと考えています。

最後になりましたが、同窓会のますますのご発展を祈念いたしますとともに皆さまには今後とも引き続きご理解とご協力そしてご指導を宜しくお願い申し上げます。



## 平成24年度看護学同窓会理事

役職名	氏名	卒業回・所属・連絡先他
名誉会長	加藤 奈智子	看学2
会長	下田 澄江	看学20
副会長	浦田 秀子	看学21・医学部保健学科(819-7947)
	勝野 久美子	看学27・看護学奨励賞担当 社会医療法人春回会長崎北病院
書記	高橋 真弓	看学25・看護部(819-7522)
	中尾 理恵子	医短 3・医学部保健学科(819-7946)
会計	石田 紀代美	看学32・5階東病棟(819-7393)
	田邊 裕子	看学23
監査	土屋 滋子	看学13
	田添 京子	看学22
学外理事	平湯 路子	看学6
	鶴嶋 葉子	看学7
	竹田 茂子	看学8
	荒木 宣代	看学10
	橋村 洋子	看学14
	山口 則子	看学15
	久松 千鶴香	看学26・長崎市医師会看護専門学校
	松藤 由布子	保健学科6・長与町役場
学内理時	福田 昌恵	看学34・手術部(819-7424)
	中村 千代美	看学36・7階東病棟(819-7565)
	森藤 香奈子	医短10・看護学研究奨励賞担当 医学部保健学科(819-7997)
	張川 恭子	医短10・SCU(819-7392)
	藏本 友恵	保健学科1・国際医療センター2階 (819-7973)



編集後記：毎年の事ながらお伝えしたい事が多く、盛りだくさんな同窓会便りとなりました。同窓会ホームページと共に今後も色々な事をお伝えしていきたいと考えておりますのでご一読いただけると幸いです。  
(医短10・張川恭子)